

1G- 2 豊かな心を育てる

ー身近な自然とのかかわりあいの中へー

神谷アキ子 鳥居佳子 深谷裕子 清水智子 野村由紀子

愛知県刈谷市立井ヶ谷幼稚園

5. 実践

A. 園を取り巻く自然環境を把握し、年間計画を作成する。

B. 直接的な体験を数多くさせる。

(1) 園外散歩を通して自然体験・感動体験の充実を図る

- ① 園外散歩
- ② イナゴ捕り
- ③ ザリガニ捕り

(2) 五感を通して数多くの体験をさせる

- ① どんぐりケーキ作り
- ② よもぎもち作り

(3) 自ら発見や気づきのある自然体験をさせる

- ① 落ち葉拾い

(4) 園外活動一年の歩みを作成する

C. 環境の工夫と家庭啓もうをやる。

6. 研究の手とめ

私たちの研究は、本園の周りの自然環境調査から始まった。その結果、数多く利用できる場があることが分かった。私たちが中心的に考えた指導のあり方は、感動体験や五感を生かした体験を多く与えること、幼児自ら気づきのある自然体験をさせること、教師のあり方としては、教師自らが自然の中で感動したり、幼児の感動、発見、気づきに共感したりすることであった。

私たちの研究を手とめると次のようになる。

- (1) 自然は日々大きく変化ある。地域の自然を保育活動に取り入れるためには、変化ある自然に柔軟に対応する教師の姿勢が必要である。
- (2) どの時期にどのような自然があるか、園周辺の自然環境を十分把握しなければならない。
- (3) 幼児は自然に自主的にかかわりながら、次々と遊びを考えたり、広げたりしていく。
- (4) 幼児がどのように自然とかわり、何を感しているかを把握し、幼児理解を深めていくことが大切である。

7. 今後の課題

- (1) 幼児が自然と多様な体験ができるように、自然環境の実態把握を更に深め、年間計画を加除修正していく。
 - (2) 幼児が自然とかわって得たことを、生活の中に取り入れて遊べるような環境の工夫や教師のあり方を一層追求する。
 - (3) 教師が幼児と共に驚いたり、喜んだり、感動したり、興味・関心をもったりできる直接体験・感動体験の場や機会を与え、知的好奇心や探索欲求を更に高めていく。
- これらのことを踏まえながら、幼児と身近な自然とのかかわりあいを軸にした保育活動を深め、特色ある園づくりをめざしていきたい。